

平成 26 年度 地球環境基金助成事業・県民の環境活動支援事業

ちば里山カレッジ実施報告書 (9)

特定非営利活動法人ちば里山センター

テーマ	里山体験活動 3 「フィールド研修 里山の自然」
日時	平成 26 年 11 月 8 日 (土)
場所	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 千葉演習林
出席者	28 名 (欠席 10 名) 講師 2 名 アシスタント講師 3 名 主催者 2 名 スタッフ 1 名
内容	<p>10:00 ~11:30 講義;「里山—自然と人間とのかかわり」「東京大学千葉演習林の概要」 講師;東京大学千葉演習林長 教授 山田利博</p> <p>12:15 ~15:30 資料館見学及びフィールド研修「東京大学千葉演習林 120 年の歴史に学ぶ」; 講師;東京大学千葉演習林 助教 當山啓介 千葉県森林インストラクター会 会長 小池英憲 寺嶋嘉春 岩崎寿一</p>
備考	<p>初めに東京大学千葉演習林長 教授 山田利博氏による講義を受けた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明治 38 年 第一次経営案を初めとして次々と計画を立てそれに基づいて施業してきた。平成 23 年に第 13 期教育研究計画が立てられた。明治 28 年に本多静六氏が成長残に造林したころ、そこは原野(萱野)の状態であったが駒場から苗を運んで植えたのが杉林であった。 ・千葉演習林の主な組織研究は①持続可能な人工林経営を実践する理論と技術の高度化②材木の育種と増殖技術の開発③絶滅危惧植物の保全に関する研究④房総丘陵における暖温帯林生態系の保全・管理である。 ・演習林の 8 割が生産林であり、戦後は立派な林業事業体であったが、現在は地形が厳しいため収穫できないところが多く、人工林(全体の約 4 割)の更に 4 割のみが収穫候補である。採算性を考えるとあまり売れない状況下にある。 <ul style="list-style-type: none"> ・薪炭も燃料革命までは大いに需要があった。薪炭技術の指導や立木の払い下げなどに役立った。 ・その他現在取り組んでいる各種研究についての説明を受けた。 <p>講義後は資料館の見学と昼食を終え、午後は演習林のフィールド研修。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習林の中の自然林について この一帯は自然林として存続させている。巨木が多い。また、菌が付いたために真っ白になって枯れていく木が見られた。 ・尾根道をバスで進むと、眼下に急峻な山の連なりが続く。演習林のあるあたりの山の特徴である。 ・人工林を収穫し、そのあとに植林をしている場所を見学。伐採して、道のある谷を隔てたこちら側に材木を吊り下げて運び出し出荷することが大変で、人手とお金がかかる。それでも道が近いところは出荷できるが、奥にある林は購入しようとするところがないでしょうとのこと。 ・苗木を育てている畑には研究された次世代に向けた木(病気に強い等)が育っていた。 ・日本各地の杉の種類を並べて植えてある山が見えた。生育状態が比較でき、美しい杉木立がならんでいた。 ・広大な山の管理は大変な労力がある。学生の方々が実習しながら次へつなげる何かを見つけて欲しい

添付資料（写真）



東京大学千葉演習林長
教授 山田利博



尾根道をバスで移動



眼下に広がる急峻の山



この辺りは自然林



人工林伐採の後 植林してある



演習林の作業所



苗畑



小雨に煙る杉木立



苗畑



孟宗竹の寿命観察のための竹林
(67年で花が咲き枯死した)



メタセコイアの木